

畑作・野菜・花き生産情報 第3号

令和8年6月19日

青森県「農林水産力」強化本部

- ◎ 小麦の刈取適期は、6月28日頃からとなる見込みです。ほ場の登熟状況を見極め適期収穫に努めよう！
- ◎ にんにくの収穫期は平年よりやや早まる見込みです。適期収穫に努め、乾燥施設の温度上昇に注意するなど、適正乾燥を行い、高品質なにんにくに仕上げよう！
- ◎ トマトや花きなどの施設栽培では、換気や遮光をこまめに行うなど、施設内の温湿度管理を徹底するとともに、病害虫の早期発見・早期防除に努めよう！
- ◎ ツキノワグマ出没警報発令中なので、農作業の際は、ラジオやクマよけスプレーを携帯するなど、人身被害の防止に努めよう！

畑作物

1 小麦

(1) 生育状況

- ・ 出穂期は、平年より3日から8日早かった。
- ・ 六戸町の「ネバリゴシ」の生育は、稈長は平年並み、穂長は平年よりやや長く、穂数は平年より大幅に多かった。
- ・ 黒石市の「キタカミコムギ」の生育は、稈長は平年より大幅に短く、穂長はかなり短く、穂数は大幅に少なかった。
- ・ 出穂期以降の積算気温から予測した刈取適期は、「ネバリゴシ」では7月1日～9日、「キタカミコムギ」では7月6日～10日、「ゆきちから」では6月28日頃となる見込みである。

表 小麦の出穂期、開花期、成熟期

場所	年次	ネバリゴシ			キタカミコムギ		
		出穂期	開花期	成熟期	出穂期	開花期	成熟期
		(月日)	(月日)	(月日)	(月日)	(月日)	(月日)
農林総合 研究所 (黒石市)	本年	5/14	5/19	未達	5/16	5/21	未達
	平年差	(5日早)	(8日早)	-	(6日早)	(7日早)	-
	平年	5/19	5/27	7/1	5/22	5/28	7/7
	前年	5/22	5/29	7/1	5/24	5/31	7/7
野菜 研究所 (六戸町)	本年	5/10	5/18	未達			
	平年差	(8日早)	(9日早)	-			
	平年	5/18	5/27	7/6			
	前年	5/17	5/27	7/1			
つがる市 (木造)	本年	5/14	5/20	未達	5/17	5/24	未達
	平年差	(4日早)	(7日早)	-	(3日早)	(5日早)	-
	平年	5/18	5/27	7/4	5/20	5/29	7/8
	前年	5/18	5/26	6/30	5/20	5/29	7/4
十和田市 (相坂)	本年	5/14	5/19	未達			
	平年差	(6日早)	(8日早)	-			
	平年	5/20	5/27	7/5			
	前年	5/18	5/28	7/1			

注) ①農林総合研究所の「ネバリゴシ」の本年値は、越冬後の融雪水による湿害が発生したため作況ほによる調査を中止し、他ほ場の生育データを参考値として記載。平年値および前年値は作況ほの調査値を参考値として記載。

②農林総合研究所の「キタカミコムギ」および野菜研究所は作況試験ほ、つがる市(木造)、十和田市(相坂)は生育観測ほの調査成績。

③平年値は、農林総合研究所が過去 19 か年(6 年産を除く)、野菜研究所の「ネバリゴシ」が過去 17 か年(24 年産(出芽不良)を除く)、つがる市(木造)の「ネバリゴシ」が過去 23 か年(4 年産を除く)、「キタカミコムギ」が過去 30 か年、十和田市(相坂)の「ネバリゴシ」が過去 15 か年の平均値

表 小麦の生育状況(6 月 10 日)

場所	年次	ネバリゴシ			キタカミコムギ		
		稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/㎡)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/㎡)
農林総合 研究所 (黒石市)	本年	68.9	9.3	313	62.2	8.2	215
	平年比	(93%)	(121%)	(76%)	(73%)	(93%)	(64%)
	平年	73.8	7.7	414	85.2	8.8	334
	前年	84.2	9.0	422	98.7	10.1	304
野菜 研究所 (六戸町)	本年	93.9	8.8	1,120			
	平年比	(101%)	(105%)	(158%)			
	平年	93.3	8.4	710			
	前年	106.3	9.6	910			

表 積算温度による刈取適期の見込み

品種 地域	ネバリゴシ		キタカミコムギ		ゆきちから	
	出穂期	刈取適期	出穂期	刈取適期	出穂期	刈取適期
中 南	5/14	7/ 1～7/ 6	5/16	7/ 6～7/10	5/10	6/28
西 北	5/14	7/ 1～7/ 6	5/17	7/ 6～7/10	—	—
上 北	5/14	7/ 4～7/ 9	—	—	—	—

注) ①出穂期以降の積算温度(「ネバリゴシ」: 830～950℃、「キタカミコムギ」: 900～1,000℃、「ゆきちから」: 840～867℃)を基準に推定した目安で、それぞれ近傍のアメダス(中南は黒石、西北は五所川原、上北は十和田)から計算(6/11 までは本年値を、6/12 以降は平年値を使用)

②「ゆきちから」の出穂期は中南地域からの聞き取り

(2) 今後の留意点

ア 刈取準備

- ・適期に刈取りできるようコンバインや乾燥調製施設を早めに準備する。
- ・効率的に収穫作業を行うため、ほ場の排水対策を徹底する。

イ 適期刈取り

- ・刈取適期は6 月 28 日頃からとなる見込みである。穂数の少ないほ場ではこれより早まることも予想されるので、よく観察し、収穫が遅れないようにする。
- ・刈取りは、ほ場毎の成熟状況を確認して、子実水分が 30%以下(穂を手でもむと脱粒しやすく、子実が爪で割れにくい状態)になった頃をめどに行う。
- ・刈取りが早すぎると未熟粒が多くなり、遅すぎると黒かび粒や穂発芽の発生によ

り品質が低下するので適期に収穫する。

- ・倒伏や穂発芽した小麦は、仕分けを行い、未熟粒や被害粒が混入しないようにする。
- ・農産物検査法の検査規格における赤かび粒混入限度は、0.0%であるので、収穫前に赤かび病の発生状況を把握し、り病粒混入が懸念されるほ場では、発生のないほ場と仕分けして、収穫・乾燥を行う。

2 大 豆

(1) 生育状況

- ・は種期から出芽期までに要した日数は、8～12 日でおおむね平年並みであった。

表 大豆の出芽状況

場 所	年 次	は種期 (月日)	出芽期 (月日)	出芽期までに 要した日数
農林総合 研究所 (黒石市)	本 年	5/22	6/3	12 日
	(平年差)	(3 日早)	(2 日早)	(1 日長)
	平 年	5/25	6/5	11 日
野菜研究所 (六戸町)	前 年	5/28	6/6	9 日
	本 年	5/25	6/2	8 日
	(平年差)	(平年並)	(2 日早)	(2 日短)
	平 年	5/25	6/4	10 日
	前 年	5/26	6/4	9 日

注) ①品種は「おおすず」

②農林総合研究所、野菜研究所の作況試験ほの調査成績

③農林総合研究所の平年値は過去 19 か年（令和元年及び5年除く）平均値、野菜研究所の平年値は過去 3 か年（令和6年除く）の平均値（は種日変更のため）

(2) 今後の留意点

- ・中耕・培土は、1 回目は本葉 2～3 枚の展開期に初生葉のつけ根まで、2 回目は本葉 5～6 枚の展開期に第 1 本葉のつけ根まで土寄せする。
- ・アブラムシ類や食葉性害虫の適期防除に努める。
- ・長雨に備え、明きよを設置するなど排水対策を徹底する。
- ・難防除雑草ツユクサ多発ほ場では、令和 4 年度指導参考資料「大豆栽培における難防除雑草ツユクサ多発圃場の防除対策」や令和 8 年度参考となる研究成果「大豆の難防除雑草ツユクサに対する畦間株間処理での防除体系」を、タデ類やシロザなどの発生が多いほ場は、令和 7 年度参考となる研究成果「大豆栽培における一般雑草多発圃場の防除体系」や令和 8 年度参考となる研究成果「大豆の一般雑草に対する畦間株間処理での防除体系」を参考に、防除対策を実施する。

野 菜

1 にんにく

(1) 生育状況

- ・地上部及び地下部の生育は、ほ場によりバラツキが見られている。
- ・収穫期は、平年よりやや早まると見込まれる。
- ・病害虫は、春腐病の発生が全域で見られ、一部地域で、さび病の発生が見られる。

表 りんにくの生育状況（6月10日現在）

調査地点	年次	植付期 (月日)	りん片 分化期 (月日)	草丈 (cm)	葉数 (枚)	茎径 (mm)	球径 (mm)	球重 (g)	収穫期 (月日)
野菜研究所 (六戸町)	本年 (平年差・比)	10/1 (±0日)	4/8 (4日早)	88.5 (97%)	12.0 (90%)	19.9 (91%)	64.1 (90%)	99.0 (74%)	6/14 —
	平年	10/1	4/12	91.1	13.4	21.8	71.4	134.6	
	前年	10/1	4/15	—	—	—	—	—	
藤崎町 福島	本年 (平年差・比)	10/4 (12日遅)	4/23 (1日遅)	72.2 (94%)	6.8 (84%)	17.0 (85%)	59.8 (106%)	75.5 (90%)	6/26 7/1
	平年	9/22	4/22	76.9	8.1	20.0	56.5	83.8	
	前年	9/27	4/26	69.7	8.1	20.3	54.4	75.4	
七戸町 鉢森平	本年 (平年差・比)	10/5 (3日遅)	4/16 (2日早)	83.4 (101%)	7.3 (97%)	17.3 (88%)	60.2 (102%)	90.8 (104%)	6/22 6/23
	平年	10/2	4/18	82.6	7.5	19.7	59.3	87.3	
	前年	10/17	4/21	89.7	8.4	18.9	53.4	74.8	
田子町 日ノ沢	本年 (平年差・比)	10/5 (5日遅)	4/12 (4日早)	80.1 (97%)	7.4 (93%)	18.2 (97%)	64.1 (107%)	96.7 (112%)	6/22 6/23
	平年	9/30	4/16	82.3	8.0	18.8	60.0	86.4	
	前年	9/28	4/21	85.0	8.3	20.5	56.0	76.9	

注) ①平年：野菜研究所は令和4年～令和6年の3か年の平均値（令和7年産は、春腐病多発のため、平年値から除外）
藤崎町は令和2年～令和7年の6か年の平均値（令和5年植付けから担当農家に変更となったため参考値）
七戸町は平成28年～令和7年の10か年の平均値
田子町は平成28年～令和7年（令和2年を除く）の緑マルチを利用した9か年の平均値
②品種：白玉王
③種子りん片重：野菜研究所 13～14g、藤崎町 12g前後、七戸町 12～15g、田子町 10～12g
④葉数：野菜研究所は抽出葉数、藤崎町・七戸町・田子町は生葉数

（2）今後の留意点

ア 適期収穫

盤茎部（ばんけいぶ）とりん片の尻部がほぼ水平となる収穫適期に収穫できるよう、早めに試し掘りを行い確認する。なお、りん片分化期後の積算気温による収穫目安は下表のとおりである。

表 りん片分化期後の積算気温による収穫目安

品 種	マルチ種	りん片分化期後積算気温（℃）	
		収穫始め	収穫終わり
白玉王	透明	800 以上	1,050 以下
	緑	850 以上	
	黒	800 以上	1,100 以下
福地ホワイト	透明・緑	900 以上	1,200 以下
	黒	1,000 以上	

※りん片分化期後の積算気温：りん片分化期翌日から毎日の平均気温を合計したもの。最寄りのアメダスデータを用いる。

イ イモグサレセンチュウの防除対策

- ・被害の拡大を防止するため、作業は種子ほ場から開始し、ほ場間を移動する際は機械等の洗浄を徹底する。
- ・イモグサレセンチュウの発生が確認されているほ場では、りん球への進入を抑制するため、①早期収穫、②速やかな根切り、③残渣のほ場外への搬出と適切な処分、④速やかな乾燥を行う。
- ・なお、種子用のにんにくは、イモグサレセンチュウの発生を必ず確認し、異常が見られた時は、指導機関に診断を依頼する。

〔イモグサレセンチュウ被害の確認方法〕

根がついたまま、20 球程度を網袋に入れて 1 か月程度自然乾燥させた後、りん片の皮をむいて発根部付近の褐変や腐敗の有無を確認する。

ウ 適正乾燥

- ・乾燥用の暖房機の温度設定は 35℃とし、煮え症状発生防止のため、にんにく付近の温度が 38℃以上にならないよう管理する。
- ・乾燥施設としてパイプハウスを利用する場合は、高温により暖房室の温度が過度に上昇しないようこまめに確認するとともに、換気により適正な乾燥温度に近づける。
- ・適温の乾いた空気が、ムラ無く、十分量にんにくの間を通るようにする。
- ・乾燥の仕上がりは重量が 7 割程度に減少した頃を目安に、根部をナイフ等で削り、盤茎部に爪がたたないぐらいの硬さであることを確認する。
- ・建築用水分計を活用する場合は、重量が 7 割程度に減少した時の盤茎部の水分含有率 10～15%を乾燥仕上がりの目安とする。ただし、テンパリング乾燥の場合は、盤茎部の水分含有率の平均値が 20%以下、かつ最高値が 30%未満の場合を仕上がり基準とする。

エ 乾燥仕上がり後の管理

乾燥仕上がり後は、出荷や冷蔵庫への入庫までの期間に、水分が戻らないようにシート等で湿気を遮断するほか、一時保管中の温度が高温にならないよう適正に管理する。

2 ながいも

(1) 生育状況等

- ・植付作業は、早植栽培では平年並の4月末から始まり、6月中旬に終了した。
- ・病害虫の発生は見られない。

(2) 今後の留意点

ア 追肥

追肥が遅れると収量や品質低下の原因となるので、開始時期は、つる長のほか、試し掘りにより新しいも長も確認して、適期に行う。

表 ながいもの追肥方法

	早植栽培（頂芽付1年子）	普通栽培	
追肥開始時期の目安	・ 植付後 60 日前後 （6 月下旬～7 月上旬） ・ 新しいも長は 5 cm 前後 ・ つる長は 150cm 前後	種いも：子いも	種いも：切いも
		・ 植付後 45～55 日頃（7 月中旬頃）	・ 植付後 55～65 日頃（7 月中下旬頃）
		・ つる長 200～220cm（ネット 8 分目～ネット上部到達） ※低温年では、新しいも長 10～15 cm を目安とする	
追肥の間隔及び回数	・ 6 月下旬から 8 月上旬の間に 12～14 日間隔で 3 回	・ 7 月中旬から 8 月中旬の間に、10 日程度の間隔で 3 回	
1 回当たりの追肥量	・ 10a 当たりの窒素成分で 5 kg 以内とする。		

※ウイルスフリー種子を使用した場合や地力が高いほ場に作付けした場合は、1回当たりの追肥量を減らす。また、下位節からの側枝の発生が多く、生育が旺盛な場合は3回目の追肥量を減らす。

イ 病害虫の適期防除

- ・葉渋病、炭そ病、ナガイモコガ、アブラムシ類の早期発見・早期防除に努める。
- ・採種ほ場では、ウイルスの伝搬を防ぐため、10日程度の間隔でアブラムシ類の防除を徹底する。
- ・早植栽培は普通栽培より病害虫の発生時期が早まる傾向があるので、注意する。

表 アブラムシ類、ナガイモコガ及び葉渋病の発生時期の目安（月／旬）

栽培法	植付時期	萌芽期	アブラムシ類		ナガイモコガ幼虫	葉渋病
			発生初め	発生盛期		
早植栽培	5／上	5／下	5／下	6／中～下	6／中	7／中
普通栽培	5／下	6／下	6／下	7／中	7／中	8／下

ウ 排水対策

- ・大雨に備え、明きょを排水溝へ接続するなどの対策を徹底する。
- ・植溝が陥没した場合は、速やかに埋め戻す。

3 春夏にんじん（べたがけ栽培）

（１）生育状況

- ・葉長は平年をやや上回り、根長、根重は平年並で、生育は順調である。
- ・病害虫の発生は見られない。

表 春夏にんじんの生育状況（６月１０日現在）

調査地点	年次	は種期 (月日)	葉長 (cm)	葉数 (枚)	根長 (cm)	根径 (mm)	根重 (g)	備 考
六 戸 町 犬 落 瀬	本年	3/24	45.1	6.7	18.1	27.6	46.8	べたがけ栽培
	(平均差・比)	(1日早)	(105%)	(84%)	(92%)	(98%)	(98%)	
	平均	3/25	43.0	8.0	19.6	28.3	47.8	
	前年	3/25	45.6	8.4	18.0	27.1	42.6	

注) ①平均: べたがけ栽培２か年（令和６・７年）の平均のため参考値

②品種: 紅吉

（２）今後の留意点

試し掘りを行い、M、L級が中心になった頃に収穫する。

4 ばれいしょ

（１）生育状況

- ・草丈は平年を大幅に下回ったものの、茎数は大幅に上回り、開花期は平年より４日早い６月１日となっており、生育は順調である。
- ・病害虫の発生は、ニジュウヤホシテントウが散見される。

表 ばれいしょの生育状況（６月１０日現在）

調査地点	年次	植付期 (月日)	萌芽期 (月日)	着蕾期 (月日)	開花期 (月日)	草丈 (cm)	茎数 (本)	備 考
三 沢 市 庭 構	本年	3/20	4/27	5/25	6/1	42.6	2.8	マルチ栽培
	(平年差・比)	(8日早)	(5日早)	(1日遅)	(4日早)	(67%)	(127%)	
	平年	3/28	5/2	5/24	6/5	63.9	2.2	
	前年	3/25	5/3	5/31	6/6	56.3	2.6	

注) ①平年: 平成２８年～令和７年の１０か年の平均値

②品種: メークイン

（２）今後の留意点

- ・疫病の防除を徹底する。
- ・早出し栽培（マルチ栽培）では６月下旬頃に試し掘りを行い、いもの肥大を確かめて収穫期を決める。また、収穫の５～７日前に茎葉を刈り取るなどして、いもの表皮のコルク化を進めてから収穫する。
- ・日中の葉の萎れや下葉の黄化等の症状を発見した場合は、ジャガイモシストセンチュウによる被害が疑われるため、指導機関に診断を依頼する。

5 ごぼう

（１）生育状況

- ・発芽は良好であったが、５月中下旬の少雨により、草丈、葉数とも平年を大幅に下回っている。
- ・病害虫は、一部地域でヒョウタンゾウムシ類が見られている。

表 ごぼうの生育状況（6月10日現在）

調査地点	年次	は種期 (月日)	草丈 (cm)	葉数 (枚)
三沢市 猫又	本年 (平年差・比)	5/7 (2日遅)	6.3 (58%)	1.0 (56%)
	平年	5/5	10.8	1.8
	前年	5/14	—	—

注) ①平年：平成28年～令和7年の10か年の平均値
②品種：柳川理想

(2) 今後の留意点

除草、病虫害防除を適期に行う。

6 メロン

(1) 生育状況

- ・定植期が平年より26日遅れたものの、つるの伸長は良好で、生育は順調である。
- ・病虫害の発生は見られない。

表 メロンの生育状況（6月10日現在）

調査地点	年次	定植期 (月日)	主づる長 (cm)	主づる葉数 (枚)	備考
つがる市 木造	本年 (平年差・比)	5/28 (26日遅)	32.5 (20%)	4.6 (22%)	トンネル栽培
	平年	5/2	163.2	21.3	〃
	前年	5/3	142.7	19.8	〃

注) ①平年：平成28年～令和7年の10か年の平均値
②品種：タカミA（台木：ダブルガードパワー）
③本年の定植期は平年より26日遅いため、参考値。

(2) 今後の留意点

- ・トンネルの開閉をこまめに行うなど温度管理を徹底し、生育の促進を図る。特に交配期に12℃以下の低温が続くと着果率が劣るので、最低気温15℃前後を目安に管理する。
- ・交配はミツバチ等訪花昆虫を利用するか人工交配を行う。また、曇雨天が続く場合はホルモン処理を併用する。
- ・高温・強日射による萎れや果実の日焼け防止に速やかに対応するため、遮光資材を用意する。
- ・アブラムシ類、アザミウマ類、ハダニ類の発生に注意し、適期に防除を行う。

7 ねぎ

(1) 生育状況

- ・草丈は、5月中下旬の少雨により、平年をかなり下回っているものの、茎径はおおむね平年並で、生育は順調である。
- ・病害は、さび病、虫害は、ハモグリバエ類、アザミウマ類の被害が散見される。

表 ねぎの生育状況（6月10日現在）

調査地点	年次	は種期 (月日)	定植期 (月日)	草丈 (cm)	茎径 (mm)
八戸市 是川	本年	12/4	3/16	61.0	16.1
	(平年差・比)	(15日早)	(9日早)	(87%)	(96%)
	平年	12/19	3/25	70.0	16.8
	前年	1/5	4/1	65.5	17.0
十和田市 洞内	本年	1/20	4/9	46.9	10.8
	(平年差・比)	(7日早)	(4日早)	(89%)	(103%)
	平年	1/27	4/13	52.6	10.5
	前年	1/20	4/10	49.1	11.1

注) ①平年：八戸市は平成28年～令和7年の10か年の平均値

十和田市は令和6年から3粒播きに変更しており、平年は2粒播きであった令和2年～令和5年の4か年の平均値のため参考値

②品種：八戸市 はやぶさ7、十和田市 夏扇パワー

(2) 今後の留意点

- ・草勢の維持に努め、生育に応じて適期に培土や追肥を行う。
- ・さび病、べと病が蔓延しないよう防除を徹底する。
- ・ネギコガ、アザミウマ類、ハモグリバエ類の発生に注意し、適期に防除を行う。

8 夏秋トマト（雨よけ栽培）

(1) 生育状況

- ・定植作業は、4月中旬頃から始まり、順次行われている。
- ・初期生育は順調で、病害虫の発生は見られない。

(2) 今後の管理

ア 追肥・かん水

- ・追肥及びかん水は、水分要求量が高まる午前8～9時頃に行う。
- ・液肥の場合、1回当たりの追肥量は、窒素成分で10a当たり0.5kgを目安とし、1～3日おきぐらいに行う。曇雨天が続く場合は、肥効が早い硝酸態窒素の多く入った肥料を使用する。
- ・かん水量は、1株当たり1.5リットルを基準に、天候を見ながら毎日～3日おきで行うが、予想最高気温が28℃以上の日は、水分要求量が高いので1株当たり2.0リットルとする。
- ・支柱誘引やUターン誘引で無摘葉とする場合は、生育が進むにつれて葉の繁茂量が多くなるので、かん水と追肥をそれぞれ慣行より1～2割程度増やす。
- ・高温が続くと、着果不良が発生したり、裂果しやすい果実ができるので、通路にかん水する。
ただし、土壌の乾燥が著しい場合に、大量に通路かん水すると軟果が発生するので、最初は深さ1～2cmまで湿る程度にかん水し、2～3日経過してから深さ約5cmまで湿る程度にかん水する。

イ 高温対策

- ・ハウス内の高温に注意し、サイドの開放と併せて、肩換気やツマ面換気も行う。
- ・生長点のしおれが見られる場合は、遮光、遮熱資材でハウスを覆う（日中の暑い時間帯のみ）。
- ・通路及び畦の肩まで白黒マルチを設置し、地温の上昇を抑制する。

ウ 病虫害防除

- ・ハウス内の湿度が高かったり、草勢が低下すると、灰色かび病、葉かび病が蔓延しやすくなるので、計画的に防除するとともに、次の対策を行う。
 - ①換気を行う
 - ②通路にマルチを敷く
 - ③株元の通風を良くするため、収穫が終了した果房の下葉を摘葉する
 - ④摘果、誘引、追肥などの作業を適期に行い、草勢維持に努める
- ・農薬による防除は、薬剤耐性菌が出現しないよう、作用性の異なる薬剤を組み合わせローテーション散布を行う。
- ・今後、アザミウマ類の発生が多くなるので、早期発見・早期防除に努める。

花 き

1 夏秋ギク

(1) 生育状況

生育は順調で、病虫害の発生は見られない。

表 夏秋ギクの生育状況（6月10日現在）

場 所	年次	品種名	定植期	草丈 (cm)	葉数 (枚)	備 考
新 郷 村	本年	精の一世	4/23	63.3	30.3	1本仕立て
	(平年比)		(3日遅)	(94%)	(94%)	
	平年	精の一世	4/20	67.6	32.1	1本仕立て
	前年	精の一世	4/22	68.4	30.6	1本仕立て
五所川原市	本年	岩の白扇	4/7	73.1	25.0	2本仕立て
	(平年比)		(10日早)	(130%)	(148%)	
	平年	岩の白扇	4/17	56.1	16.9	2本仕立て
	前年	岩の白扇	4/20	51.2	15.2	2本仕立て

注) ①新郷村の平年：令和3年～令和7年の5か年の平均値

②五所川原市の平年及び前年：平成30年～令和7年の8か年（令和8年度から担当農家が変わったため参考値）

(2) 今後の留意点

ア 芽かき・つぼみかき

- ・発らいと前後して側枝（わき芽）が伸び始め、大きなつぼみの周りにも小さなつぼみができるので、品質向上のため早めに除去する。

イ ビーナイン処理（施設栽培のみ）

- ・花首の伸長を抑えるため、発らい期～摘らい期にビーナイン顆粒水溶剤等を散布し、品質の向上に努める。

ウ 病虫害防除

- ・多湿条件では、白さび病や灰色かび病が発生しやすくなるため、こまめに換気するとともに予防に努める。
- ・高温乾燥条件では、アブラムシ類、ハダニ類、アザミウマ類等の発生が多くなるので、早期発見・早期防除に努める。

2 秋ギク

(1) 今後の留意点

ア 定植

- ・10月出荷の作型は7月上旬までに定植する。
- ・土壌pHの矯正及び基肥の施用は定植2週間前までに行い、土に十分なじませしておく。
- ・水分不足は生育の遅れを招くので、あらかじめ十分にかん水しておく。
- ・移植栽培の場合は、挿し芽を定植2週間前に行い、1～2cm程度発根した苗を定植する。

イ 定植後の管理

- ・定植後は、軽にかん水して活着を促進する。
- ・日中は25℃以上にならないように管理する。
- ・摘心を実施する場合は、苗が活着してから行う。
- ・ほ場周辺の雑草は病虫害の発生源となるので、繁茂させないように除草・防草に努める。

ウ 病虫害防除

- ・夏秋ギクに準ずる。

3 トルコギキョウ

(1) 生育状況

生育は順調で、病虫害の発生は見られない。

表 トルコギキョウの生育状況（6月10日現在）

場 所	年次	品 種 名	定植期	草丈 (cm)	節数 (節)
青 森 市	本年	ひこ星	3/26	31.3	13.3
	前年	ひこ星	4/10	19.2	10.5
黒 石 市	本年	ボンボヤージュスイートピンク	5/9	11.6	6.6
	前年	ボンボヤージュスイートピンク	5/4	12.3	8.5

注) ①青森市の平年値：令和5年から品種が変更されたため、平年値なし

②黒石市の平年値：令和4年から園地が変更されたため、平年値なし

(2) 今後の留意点

ア かん水

- ・発らいまでは根の張りを良くするため、乾湿の差をつけて管理する。

イ 温度管理

- ・換気や循環扇、寒冷しゃ等を活用し、日中 25℃以下、夜間 15℃を目標に管理する。

ウ 側枝等の整理

- ・不要な側枝は早めに摘み取る。また、頂花らい（1 番花）は、早めに除去し、上位節から発生する分枝の伸長を促す。

エ 病虫害防除等

- ・今後、灰色かび病やアザミウマ類が多発しやすい時期となるので、早期発見・早期防除に努める。
- ・チップバーンの発生しやすい品種やほ場では、必要に応じてカルシウム剤を葉面散布する。

オ 短茎開花対策

- ・9～10 月出荷の作型では、定植期が高温・長日条件となるため、「短日処理」、「遮光処理」、「赤色 LED 電照」が有効である。
- ・ただし、品種によって効果は異なるので、詳細については指導機関に相談する。

【短日処理】

定植から 30 日程度、夕方 5 時から翌朝 8 時まで 100%遮光資材でトンネル被覆し、9 時間日長とする。

【遮光処理】

定植から 30 日程度、遮光率 40%程度の白寒冷しゃを展張する（ハウスの内張り、外張り、どちらでもよい）。なお、曇天、雨天で低日照が続く際には、品質が低下する場合もあるので注意する。また、30 日程度の遮光後は必ず白寒冷しゃを除去する。

【赤色 LED 電照】

定植から発らい期までの期間、夕方 4 時から翌朝 8 時まで電照する。

畑作・野菜・花き生産情報第 4 号は令和 8 年 7 月 1 7 日発行の予定です。

◎『日本一健康な土づくり運動』展開中 ～元気な作物は健康な土が育みます～

土壌診断に基づく適正施肥や土壌改良は、施肥コストの低減にもつながります。

緑肥を活用し、作物の生育に好適な土壌環境づくりを心がけましょう！

効率よく堆肥を使い、堆肥の肥料成分を考慮した化学肥料の低減に努めましょう！

◎環境にやさしい農業に取り組んで、「みどり認定」を受けましょう。

みどりの食料システム法に基づき、土づくりと化学肥料・化学農薬の使用低減などに取り組む農業者を認定（みどり認定）しています。認定を受けると、設備投資の税制優遇や国庫補助事業の優先採択、低利・無利子融資などのメリットがあります。

https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/nourin/noen/midori_kihontekinakeikaku.html

◎令和 8 年度青森県農薬危害防止運動展開中（6 月 1 日～8 月 31 日）

- 1 農薬を使用する際は、必ず最新の登録内容を確認し、適正に使用しましょう。
○農林水産省「農薬情報」
https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/
○農林水産省「農薬登録情報提供システム」
<https://pesticide.maff.go.jp/>
- 2 飛散防止に努め、住宅地等の近隣で使用する際は、事前に周囲に知らせましょう。
- 3 クロルピクリン剤など土壌くん蒸剤を使用する際は、必ず厚さ 0.03mm 以上又は難透過性の被覆資材で被覆しましょう。
- 4 市販の除草剤には、農作物等の栽培管理に使用できない「農薬ではない除草剤（農薬ではない、非農耕地専用などと記載）」があるので、注意しましょう。
- 5 農薬は使い切りを徹底し、河川等には絶対に捨ててはいけません。

◎食中毒を防ぐため、生産段階から「野菜の衛生管理」に努めましょう。

- 1 栽培に使用する水の衛生管理や水質の確保に努めましょう。
- 2 家畜ふん堆肥は、水分調整や定期的な切り返しを行い、十分発酵させましょう。
家畜ふん中の菌の死滅には、55℃以上の温度が3日以上続いている状態が必要です。
堆肥の製造工程では、この温度条件を確認しましょう。
- 3 家畜ふん堆肥を野菜栽培に使用する際は、製造工程や熟成度を確認しましょう。確認できない場合には、堆肥施用から収穫までの期間を、収穫部位が土壌から離れた野菜は2か月、土壌に近い野菜は4か月空けましょう。
- 4 農機具や収穫容器等は清潔な状態を保ち、汚水の流入や野生動物の侵入防止等、栽培環境の整備にも努めましょう。
※ 野菜の衛生管理指針、家畜ふん堆肥の生産・利用の注意点はこちら
→https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/nourin/sanzen/yasai_eiseikanri.html



◎備えあれば、憂いなし！ 農業保険を活用しましょう！

自然災害や価格下落など、農業経営を取り巻く様々なリスクに備えるため、自分の経営にあった農業保険（国などが掛金の一部を補助する公的保険制度）を活用しましょう。

- 1 自然災害リスクをカバーしたい方
農業共済（農作物共済・畑作物共済・園芸施設共済）は、全ての農業者を対象に、米、麦、畑作物、農業用ハウスなどが自然災害によって受ける損失を補償します。
※ナラシ対策や野菜価格安定制度等を利用することもできます。
- 2 様々なリスクをカバーしたい方
収入保険は、青色申告を行っている農業者を対象に、自然災害や価格低下だけではなく、農業者の経営努力では避けられない収入減少を広く補償します。
※詳しくは、お近くの農業共済組合までお問い合わせください。

◎熱中症予防運動を展開中です（6 月 1 日～8 月 31 日）

農林水産業分野での熱中症による救急搬送された方は近年増加傾向にあり、令和 7 年は 47 名が救急搬送されています。

これからの暑い季節は、農作業中に熱中症になるリスクが大きくなりますので、こまめな休憩と水分・塩分補給を行い、立ちくらみやめまい等の熱中症の疑いを感じたら、作業を中止し、体調の回復に努めましょう。

◎労働者への熱中症対策が義務化（罰則あり）されています。

昨年 6 月に労働安全衛生規則が改正され、労働者を雇用する全ての事業者に対して、熱中症対策が義務付けられました。

熱中症対応フローなど必要事項を記載した「張り紙」を事務所等に掲示しましょう。
「張り紙」のひな型については、青森県農業・就農情報サイト「農なび青森」に掲載しています。

詳しくは「農なび青森 熱中症対策」で検索してください。

◎ツキノワグマ出没警報発令中!!（4月20日～11月30日）

1人での作業をできるだけ避け、ラジオやクマよけスプレーを携帯するなど、人身被害の防止に努めましょう。

野菜・果実等の収穫残さや弁当の空容器などは、クマを引き寄せる原因となるため、農地に放置せず、適切に処理しましょう。

農地周辺の藪を刈払って見通しを良くすることで、クマの隠れ場所を無くし、クマが農地に近づきにくい環境を整えましょう。

詳細は県ホームページをご確認ください。

(https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kankyo/shizen/kuma_cyuui.html)

連絡先	農産園芸課
	稲作・畑作振興グループ
県庁内線	5073
直通	017-734-9480
	野菜・花き振興グループ
県庁内線	5076
直通	017-734-9481